

# 社会と個人のために『これからの睡眠』を医療に広げるには？

2014年第6回 ISMSJ 学術集会のテーマは“「これからの睡眠」を社会と個人の視点から問う”であり、問うた後には答えを探す必要がある。その中で医療が果たす役割は大きい。睡眠は臓器ではないので、全ての疾患・全ての健康・全ての活力と境界なく関連する。患者さんから睡眠に関する訴えを聞く機会が一番多く、睡眠関連症状を併発する率が一番高い精神疾患の外来診療医の集まりである「大阪精神科診療所協会」との共催で、“社会と個人のために「これからの睡眠」を医療に広げるには？”とのタイトルで、睡眠に関心のある医療関係者の皆様との議論の機会を得たいと考えた。必ずしも医療・精神科に限定しない課題をも取り上げ活発な総合討論で答えを探す道筋を見つけたいと願っている。医療に関係する多職種の方の御参加・御討論を期待している。

座長：高橋 正也（労働安全衛生総合研究所 上席研究員）  
三上 章良（大阪大学キャンパスライフ支援センター 准教授）

精神科専門医の更新ポイント申請予定  
**事前申し込み制**  
締切 7月15日

## 日時

2014年8月3日（日）  
9:00～12:30

第6回 ISMSJ 学術集会  
(<http://www.conet-cap.jp/ismsj6th>)  
の3日目午前に開催されます。

## 場所

神戸ファッションマート  
9階イオホール

## 参加費

第6回 ISMSJ 学術集会参加者  
大阪精神科診療所協会会員、  
日本精神科診療所協会会員および  
会員施設の医療従事者は無料  
(上記以外の方は2000円)

## 共催

公益社団法人  
大阪精神科診療所協会

精神科クリニックの立場から

### 1. 外来診療における睡眠の重要性

大阪精神科診療所協会 会長  
つつみクリニック 院長 堤 俊仁

総合病院睡眠医療センターの立場から

### 2. どんな患者を睡眠専門医へ紹介すべきか？

大阪回生病院 睡眠医療センター  
部長 谷口 充孝

大学研究者の立場から

### 3. 睡眠をじっくりみたら気づく現象

大阪大学大学院歯学研究科 高次脳口腔機能講座  
講師 加藤 隆史

睡眠クリニックの立場から

### 4. 睡眠薬を処方する前・する時・した後に考えること

大阪精神科診療所協会 理事  
京谷クリニック 院長 京谷 京子

国際睡眠専門医の立場から

### 5. ベッドパートナー（目撃者）なしのガラパゴス睡眠診療を乗り切るために

関西電力病院 睡眠関連疾患センター  
センター長 立花 直子

米国睡眠専門センターの立場から

### 6. 睡眠への愛を境界なく広げるために

Stanford Sleep Medicine Center  
Clinical Fellow 河合 真

## 問い合わせ先

第6回 ISMSJ 学術集会事務局  
E-mail: [ismsj@conet-cap.jp](mailto:ismsj@conet-cap.jp)